

## 27年5月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年5月1日～ 27年5月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
5月分の回答企業数は10社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## 素材生産動向

品目		27/5月	6月	7月
伐採動向	スギ	△ 50.0	△ 28.6	△ 7.1
	ヒノキ	△ 10.0	△ 20.0	△ 40.0
	カラマツ	△ 37.5	△ 37.5	△ 25.0
	エゾ・トド	△ 16.7	16.7	△ 16.7
出荷・販売動向	スギ	△ 16.7	△ 25.0	8.3
	ヒノキ	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
	カラマツ	△ 75.0	△ 25.0	0.0
	エゾ・トド	△ 16.7	33.3	△ 33.3
手持立木在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 37.5	△ 25.0
	ヒノキ	0.0	△ 16.7	△ 16.7
	カラマツ	△ 75.0	△ 50.0	△ 37.5
	エゾ・トド	33.3	△ 16.7	△ 33.3

・スギ、ヒノキ及びカラマツの伐採は3ヵ月連続して減少、エゾ・トドは5月の減少が6月増加するが7月には再び減少。

・スギの出荷・販売は5月及び6月の減少がやや7月は増加に、ヒノキは3ヵ月連続して減少、カラマツは5月及び6月の減少が7月は横ばいに、エゾ・トドは5月の減少が6月増加するが7月には再び減少。

・スギ及びカラマツの立木手持ち在庫は、3ヵ月連続して減少、ヒノキは5月の横ばいが6月、7月は減少、エゾ・トドは5月の増加が6月、7月は減少。

## モニターからのコメント

## (伐採動向)

- ・当月は、搬出期限の近いカラマツ間伐をする、翌月からは国有林の請負事業に入る。
- ・5月～6月は立木販売作業を実施、6月以降は生産請負を予定。
- ・スギは落ち着いた動き、カラマツは不足気味で引き合い多い。
- ・新年度ヒノキ山生産受注。
- ・5月下旬からスギ皆伐始まる。
- ・スギは、今年は虫害が4月後半から発生し、伐倒を控え気味にしている。

## (出材・販売動向)

- ・5月は融雪期で林道通行禁止のため販売量が減少。しかしこの冬は雪が多く合板工場とチップ工場は入荷量が少なく販売意欲はある。
- ・6月から国有林請負で出材は減る。
- ・スギ販売は横ばい、カラマツ引き合い多く品不足気味。

## (手持ち立木在庫)

- ・エゾ・トド、カラマツを5月～7月に出材するので、7月末には手持ちはなくなる。
- ・今月はカラマツ立木減少する。翌月から国有林の請負事業に入るので、トドマツ、カラマツの手持ち立木は横ばい、良い立木物件あれば購入する。
- ・スギ買入れ横ばい、カラマツは急がずに買いにまわっている。